

折に触れ 四字熟語

NO. 224 『瓜田李下』 かでん りか

< 意味 > 人に疑念を抱かせるような言動は慎むべきであるという戒めの語。また、人に疑念を抱かせるような言動のたとえともなる。「李下瓜田（りかきゅうでん）」ともいう。

< 出典 > 古楽府「君子考」

「君子は未然に防ぎ、嫌疑の間に処^おらず、瓜田に履^{くつ}を納れず、李下に冠^いを正さず」（君子たる者は未然に疑いをうけるようなことは避けなければならない。うり畑でかがんで履物をはき直すと、うりを盗んでいると疑われるし、すももの木の下で冠をかぶり直すと、すもものを盗んでいると疑われるので、こうした行為は避けなければいけない）

語 釈：「瓜田」は瓜^{うり}のはたけ。「李下」は李^{すもも}の木の下。

用 例：あっちが顔のいい上にあんなにはねっかえりで、瓜田李下の嫌疑なんぞにかまわないところへ<三宅花圃・藪の鶯>

一 言：「李下之冠」とも言いますね。疑いを持たれないように日々の行動には気をつけなければいけません。

参考文献：岩波書店「四字熟語辞典」